

平成14年度
(2002)
第42回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌日大

【 大会寸評 】

大会期間は、晴天に恵まれ最高のコンディションで、熱戦が繰り広げられた。団体戦男子は、札幌藻岩高が13年連続23回目、女子は札幌日大高が初優勝を遂げた。特に、札幌日大高は主力選手が今年入学した1年生ということで、今後の活躍が大いに期待される。惜しくも準優勝におわった男子の札幌日大高、女子の札幌清田高の健闘も目立った。個人戦シングルスは、男子は千葉建二（札幌藻岩）、女子は武田麻衣（札幌日大）が優勝した。特に、武田麻衣選手の高い打点からのショットは威力十分である。全国に出場する男子は、松本卓真（札幌光星）、木村慎吾（札幌日大）、佐藤一一希（札幌日大）、女子は山口未奈登（札幌静修）、田代美智（札幌清田）、石川菜和子（札幌西）の各選手である。個人戦ダブルスは、男子は札幌藻岩同士の決勝戦になり、千葉・杉村組が制した。特に、千葉建二（札幌藻岩）は今大会三冠に輝き敬意を表したい。女子は、田代・古川組（札幌清田）が強豪校の地力で優勝し、札幌日大の三冠を阻んだ。全国に出場する男子は、鈴江・武田組（札幌藻岩）、女子は、武田・小川組（札幌日大）の各選手である。

【 全国大会 】

また今年も北海道では経験のできない暑さの中、健闘していたが、勝てる試合を惜しくも競り負ける場面が多かった。ボールに集中し、普段の力を発揮できる勝負強さを今後身につける厳しさを期待したい。

団体戦では、男子の札幌藻岩がベスト16に入り、よく健闘した。気合いが感じられ、ねばり強く接戦をものにした。準優勝した日大三島戦の内容も良かったが、今一步力負けした。女子の札幌日大は普段の力が発揮できず、敗れ去った感じである。個々のメンバーの優れた力を、全国大会の大舞台で遺憾なく出せれば、強豪相手でも良い勝負を挑めるはずである。残念な結果だったが、今後に期待したい。個人戦では男子シングルの千葉建二（札幌藻岩）、女子シングルの田代美智（札幌清田）の健闘ぶりが一際目立った。強豪相手に素晴らしいプレーを展開し、惜しくもベスト16に入れなかったが、内容的には全国に通用するものだった。残念ながら、他の選手は皆1回戦敗退であった。惜しい試合

も多かった。実力差がないにもかかわらず、普段の実力が出せなかった。今後に向けて、粘り強く最後まで足を動かす体力、ミスの少ない安定したプレー、1ポイントに対する集中力を鍛え、全国レベルでの活躍を期待したい。

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

我々藻岩高校男子テニス部は、今年優勝したことで高体連北海道支部大会12連覇を達成した。優勝が決めた瞬間は、やはりなんとも言えない喜びが込み上げてきた。決勝は思いもよらない苦戦を強いられたが、優勝できてホッとしたことは今でも覚えている。特に大会の前から不安があったわけではないが、どういう大会でも決勝というのは、自信がいくらあったとしてもそれに増して緊張や不安等が重くのしかかるものだろう。特に団体戦の決勝は、しばらく自分のテニスを見失うほど気負いしてしまう。しかし、それを乗り切って優勝した時には、相手に勝ったというより自分に勝ったと言えるだろう。自分に勝つということがどれだけ難しいことかは、今までの経験で身に染みてわかったつもりだ。監督の前之浜先生は、よくラケットを投げたり、天を仰ぐような仕草は絶対するなどと言う。僕もそういった行動をすると負けてしまうことをよく知っているのでやらない。その行動はもう自分に負けてしまったことを意味するのだろうと僕は思う。自分に負けてしまうという現象は、今まで見てきて大体、強い奴の方が落ち入りやすい。そういったことから団体戦で勝ち続けることは難しいとつくづく思う。だからこの偉大な連覇記録を絶やさずに、そしていつかインターハイ制覇を成し遂げて欲しい。

(札幌藻岩高校 主将 千葉 建二)

優勝のよろこび

女子 札幌日大高等学校

入部したての頃は、とにかく毎日の練習が楽しいばかりで、団体戦で優勝したいという気持ちはそれほど強く持ってはいませんでした。しかし、チームが一つになって優勝していく高校を何度か見ているうちに、自分もそんなチームを作りたいと思う気持ちが強くなってきました。しかし道のりは険しく、辛くて泣いたことが何度ありました。そんな中で、私にとってチャンスが訪れたのは高校最後のインターハイでした。他校からは「層が厚いから」とか「ジュニアが多いから」などと言われることもありましたが、勝ち続けるのは決して容易なことではありませんでした。個人の力量だけに頼らず、普段の練習はもちろんのこと、全道大会の前日も夜遅くまで、「優勝」を合い言葉に精一杯努力して。時には一人ひとりの意見が食い違い、衝突することがあったり、キャプテンとして怒らなければならないこともありました。でも、そんなことがあったからこそ、チームが一つとなり、優勝を勝ち取ることができたのだと思います。三年間、私を支えてくれた先生方、先輩達、そして共に頑張った仲間達にとっても感謝しています。この貴重な経験を生かし、

私は何事にも精一杯取り組んでいきたいと思います。そして、後輩達には全国大会で活躍してはしいと願っています。

「日大テニス部ありがとう」

(札幌日大高校 主将 佐藤 舞)

全国高校総体（第92回全国高等学校庭球選手権大会） 茨城

8月1日～8日 神栖町海浜運動公園テニスコート

男子	個人戦シングルス	優勝	安 裁成（足利工業大附）
女子	個人戦シングルス	優勝	尾崎真衣加（夙川学院）